

刊行辞

国史編纂委員会が所蔵している書契は朝鮮後期の対日外交文書であり、元来は日本の対馬島宗家文庫に保管されていたものである。

対馬宗家文書は朝鮮総督府傘下の朝鮮史編修会が《朝鮮史》編纂事業と植民統治の資料として利用するために1926年と1938年の2回にわたって購入したもので、書契をはじめとするこれら文書は光復（解放）とともに、本委員会で保存・管理されることになった。本委員会は1970年代初からこれら文書を整理し始め、記録類・古文書・書契・絵図類・印章に区分、全28,741点を所蔵している。この中で書契は全てが原本であり、他では見られない貴重な文書である。

したがって本委員会では史料の効果的な活用方を考究するために、1988年本委員会の果川庁舎移転を契機に、宗家文書の目録から刊行することを5ヵ年計画として樹立・推進してきた。この計画によって、1990年10月には《対馬島宗家文書記録類目録集》1巻がすでに刊行されており、今回の《書契目録集》はその後の継続事業にあたるものである。1991年10月に《書契目録集》をすでに刊行して、1992年には続いて《書契目録集》を刊行することができた。しかし、書契は全部で9442点もあり、
・ 巻に収録できないほどその量が多いので、これから
・ 巻にわたって刊行し続ける計画である。

書契は朝鮮後期の日本（対馬）との通交・貿易に関する全ての交渉を行なうに際し、基本となっていた朝鮮政府の公式外交文書であり、朝鮮政府の最終案に関する確認は勿論、両国間の政治・外交・経済・文化に関する交流を知るのに基本的な史料として評価される。

今回の《書契目録集》第 巻の刊行を契機として、朝鮮後期の対日関係史研究において新しい成果が出てくることを期待してやまない。

最後にこの目録集を刊行するにあたって原稿の整理をしてくださった林鐘海先生と研究委員李薫・鄭成一両氏にも深い謝意を表したい。

1992年10月5日

国史編纂委員会
委員長 朴永錫